

第9回産業日本語研究会シンポジウム
2018年3月5日(月)
丸ビルホール

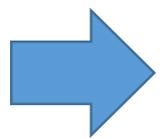
大学におけるライティング教育 —《考える》学生を育てる—

早稲田大学 国際学術院
佐渡島紗織

はじめに

本シンポジウムの趣旨

「グローバル化が急速に進む中、多言語によるコミュニケーションがいかにあるべきか、多言語で発信する源にもなる日本語文書が伝わるものとするためには何に留意すべきか」



どんなに日本の国際化が進み、
発信のあり方が多様になっても・・・
大学の役割は、

しっかり《考える》学生を育てること

次第

1. 《考える》学生を育てる
ライティング授業
2. 《考える》学生を育てる
ライティング支援

1. 《考える》学生を育てるライティング授業

大学におけるライティング教育

学生の姿

情報の入手が容易（インターネット発達）

⇒スマホかパソコンがあればレポートが書ける

⇒学生の情報取得能力は上がっている “throughput”



- ◆提出される文章の内容が学生間で似てきた
- ◆情報を繋ぎ合せているだけの文章が提出される
 - 何が言いたいのがよく分からない文章
 - 論点同士の矛盾が見られる文章

情報そのものは掲出されている

『電車の中で化粧をする人がいる。この行為について論ぜよ。』

インターネット

- ・お直し程度なら不快と感じない。(男性)
- ・迷惑だけど、見ていて楽しい。(男性)
- ・粉や匂いが迷惑。(男性・女性)
- ・働く女性の朝の電車くらいは許してやれと思う。(男性)
- ・恥ずかしいと思う気持ちはあるけれど、どうしても時間がないときはやってしまう。(女性)
- ・車内でパジャマから着替えるのと同じくらいに恥ずかしいこと(女性)

〈情報の解釈や評価をさせる〉課題

■テーマだけを与えるのではなく、

素材を与える

素材から引用させて、論じさせる



情報を拾う、並べるだけでなく、

情報から何が言えるかの解釈、評価を
書かせる

〈参考文献1〉柿洪新聞、2017年10月14日発行、人前で化ける、五十嵐竹三、10面、新聞の第1版、関東地方版

人前で化ける

大正生まれ 五十嵐竹三

昔の女の方は、つつましやかだった。妻は、長い間連れ添ってきたが、私の前で化粧をしたことはない。

いつの頃からか、若い女性が駅や電車で化粧をするのを見かけるようになった。座ったとたんに大きな化粧ポーチを鞆から出して、これまた大きな鏡を出して、せっせと化粧を始める。だんだんに目がパッチリしていき、唇がくっきりと紅色になり、流線型の眉が出来上がる。お上手お上手、変身に成功しましたね、と褒めてあげたくなる。

しかし、この女性は、からくりをすべて公開してしまった。私を始めとする暇人には、格好の観察対象である。女性の顔が化粧によって刻々と変化するのを観察するのは、へたな小説を読むよりも面白い。しかしながら、つれあいが化粧をする姿を見たことがない我々世代の男性にとっては、見てはいけないものを見てしまったような気持ちにもなるものだ。お嬢さん、公開してよろしいのですか、と。

ところで、私は、ヨーロッパを旅行中、駅待合所でこんな光景を見た。ベンチに座って化粧をしている女性に男性が近づき、「ハウ マッチ？」とお札を差し出しているのである。ヨーロッパの国々では、人前で化粧するのは、客引きを意味するそう。日本のお嬢さんたちは、気がつけたほうがよい。

—新聞の10面—

〈参考文献2〉p.21、『季刊社内誌 春夏秋冬』、土居道子、2017年秋号、題はお化粧の働きとは

お化粧の働きとは

産業カウンセラー 土居道子

お化粧は、アイデンティティを表明もしくは創り上げる、重要な働きをする。

朝、鏡の前で化粧を施したとたんに仕事モードに切り替わるという友人がいる。この友人は、20代からばりばり仕事をし、出世街道を歩んでいる女性である。この切り替わりは、「職業人」というお面を被るようなものなのだろう。お化粧を施した自分は公的な存在で、冷蔵庫の残り物が何であったか、子どもの遠足はいつだったかは、すっかり頭から消えてなくなる。私的な自分は今どこにもいない。この場合のお化粧は、お化粧らしいお化粧—いかにいつもの自分と変わるかが鍵である。

一時期、「自然流」といったお化粧が流行ったことがあった。まるで化粧をしていないように見えるが、目が実際よりぱっちりする、肌がかがやいて見えるなどの効果を狙ったものだ。こちらは、逆にお化粧をしていないように見せることがお化粧の上手さであり、本当に相手を騙すためにするのである。

昔は、男性も堂々とお化粧をしていた。平安時代は、公家たちがおしろいを塗りお歯黒を施していた。今も、歌舞伎で顔を白く塗って登場するのは、高貴な人である。これらは、身分を顕すためのお化粧である。男女に関わらず、むしろ身分をアピールするものとしてのお化粧だったのである。

〈情報の解釈や評価をさせる〉課題

【課題】

『人前で化粧をする人がいる。この行為について、指定された参考文献を一つまたは二つ使って論ぜよ。』

ブロック引用を含め、本文を600字程度で書く。

【作業】 ブロック引用部分と自分の論とは、どのような関係ですか。授業で示されていた例を参考にして書きましょう。

[]

人前で化粧をすること —公私を分けることの効果—

△学部一年 ○○○○○

人前で化粧をすることについて、私は、反対である。なぜなら、私的生活と公的生活とを分けるべきだからである。本レポートでは、人前で化粧をするべきではない理由と、効果について述べる。土居道子(2017)は、化粧の働きについて、次のように説明している。

朝、鏡の前で化粧を施したとたんに仕事モードに切り替わるという友人がいる。この友人は、20代からはりばり仕事をし、出世街道を歩んでいる女性である。この切り替わりは、「職業人」というお面を被るようなものなのだろう。お化粧を施した自分は公的な存在で、冷蔵庫の残り物が何であったか、子どもの遠足はいつだったかは、すっかり頭から消えてなくなる。私的な自分はもうどこにもいない。この場合のお化粧は、お化粧らしいお化粧—いかにいつもの自分と変わるかが鍵である。(p.21)

土居は、化粧の働きの一つとして、ありのままの「私的な自分」から「公的な存在」へ切り替えることだと述べる。電車やレストランなどの場所で、人前で化粧をすることは、公私の区切りを曖昧にしていると推測される。公共の場で私的生活の自分を公開することは、周囲の人々に違和感と、時に嫌悪感を与える可能性がある。それゆえに人前で化粧をすべきではないのである。また、自分の家の中で公私を切り替えることで、家の外で公的に行動する際、自然とメリハリのある、効率的な行動が可能になると推測される。

以上の理由と効果から、人前で化粧をすべきでない結論付ける。

参考文献

土居道子(2017)「お化粧の働きとは」『季刊社内誌 春夏秋冬』2017年秋号、p.21

ブロック引用部分と自分の主張との関係 【自分の主張を裏付ける現象を紹介する】

〈情報と情報の関係性を問う〉課題

『少子化を食い止めることが日本の課題である。同時に、政府は、女性が社会進出する重要性を唱えている。二つは矛盾するか。』

『昭和初期まで、日本では、男は外で働き女は家で家事・育児に専念するという家庭の在り方が理想であった。現代では、この家庭の在り方は理想か。』

《考える》学生を育てるために

情報の再構築を促すライティング課題が有効

文章を作成・診断するための観点を教える授業が有効

* ある企業での研修

〈文と文との繋がり方〉を自覚させる

■ 接続表現を、できるだけふんだんに、的確に使って論じなさい。

付加、転換、理由、言い換え、例示、帰結、補足 野矢茂樹(2001)

そして しかし なぜなら すなわち たとえば したがって なお

会社の公用語を英語にするという方針は、国際化の時代に合っている。

書類もミーティングも英語を使っていると、社員の英語力は自然と高まるだろう。英語力の高い人材は、企業が海外に進出するためには欠かせない。【しかし、】英語ではどうしても伝わらないという場合には、日本語も交えながら進めるという柔軟な対応が求められる。

〈具体—抽象〉の往復を自覚させる

■ 抽象的な概念を具体を示しながら説明させる

『あなたにとって「遊び」とは何か。具体例を挙げながら説明せよ。』

『「智恵」とは何か。「智恵」がどのような事柄を指し示すかを具体的に説明しながら論じなさい。』

〈具体－抽象〉の調節をさせる

■パワー・ライティング …アメリカの作文技法

『パラリンピック開催の意義を、論点を整理して論ぜよ。論じる文章をパワー〈123231〉で書く。』

【1】パラリンピックには二つの意義がある。

【2】一つ目の意義は、障害を抱える人にも世界大会に出場する機会を与えるためである。

【3】リオパラリンピックでは、身体的障害者における男子100mでScott Reardon選手が12.26秒で優勝した。このタイムはオリンピックの場合出場することすら不可能である。

【2】二つ目の意義は、障害者の存在を世界に再認識させるためである。

【3】日本には身体障害者だけで平成22年時点で366.3万人存在し、知覚障害者なども含めると、国民の6%が何らかの障害を有している。

【1】よってパラリンピックの意義は、障害者にも世界大会に出場する機会を与え、障害者の存在を再認識させることである。

様々な「観点」で文章作成を自覚させる

「学術的文章の作成」授業

…大学基盤教育(履修者、年間約4500人)

オンデマンド授業 8週間1単位



【第4回】
高校生のアルバイト
—高校生が本当にやるべきこと—

※※※※※
○○○○○

本レポートでは高校生が在学中にアルバイトを行う必要があるかどうかについて論じていく。また、高校生が本当にやるべきことについても論じていく。

はっきり言って高校生がアルバイトをする必要はないであろう。しかし、アルバイトからしか得られない社会経験があるという声も多い。たとえ、時間制のアルバイトでも、雇われれば高校生は社会においての時間の厳しさを体験から学ぶことができる。他には言葉遣いや礼儀等である。しかし、これらは全部、真面目に高校生生活を送れば身につくものである。高校では部活動等の課外活動もある。それに、体育祭や文化祭は生徒が中心となって企画をしていく。その一生涯を取り組むことにより、十分な社会経験を積むことができる。それに、アルバイトは高校を卒業してからでもすることができる。高校生の間は高校生としてやるべきことを一生涯やるだけで十分であろう。

以上ことから、高校生がアルバイトをする必要はないと言えるであろう。高校生は高校生活を十分に満喫すべきである。

コメント【Y01】:「目的が明確に書かれています。『に』が二重使われていますが、どちらも必要ではないでしょうか。」
コメント【Y02】:「はっきりは話し言葉的な表現なので、添けたほうがいいでしょう。なぜ『必要はない』と言えるのかも、説明しなければ、わかりません。」
コメント【Y03】:「に」の誤りではないですか。」
コメント【Y04】:「本当にやるべきことについての『論点』に対する答えが『やるべきことを一生涯やるだけで十分』というのでは、少しずれているように思えます。結論の段落にある『高校生を十分に満喫すべき』が、本論の結論になる。本論でも述べておく必要があるでしょうか。[-1]」
コメント【Y05】:「高校生生活を十分に満喫する、という真意は、本論にないのでは、可憐さを欠くのか、よくわかりませんが、結論は、本論で述べたことを繰り返す形で、目的(問い)に対する答えをまとめましょう。」

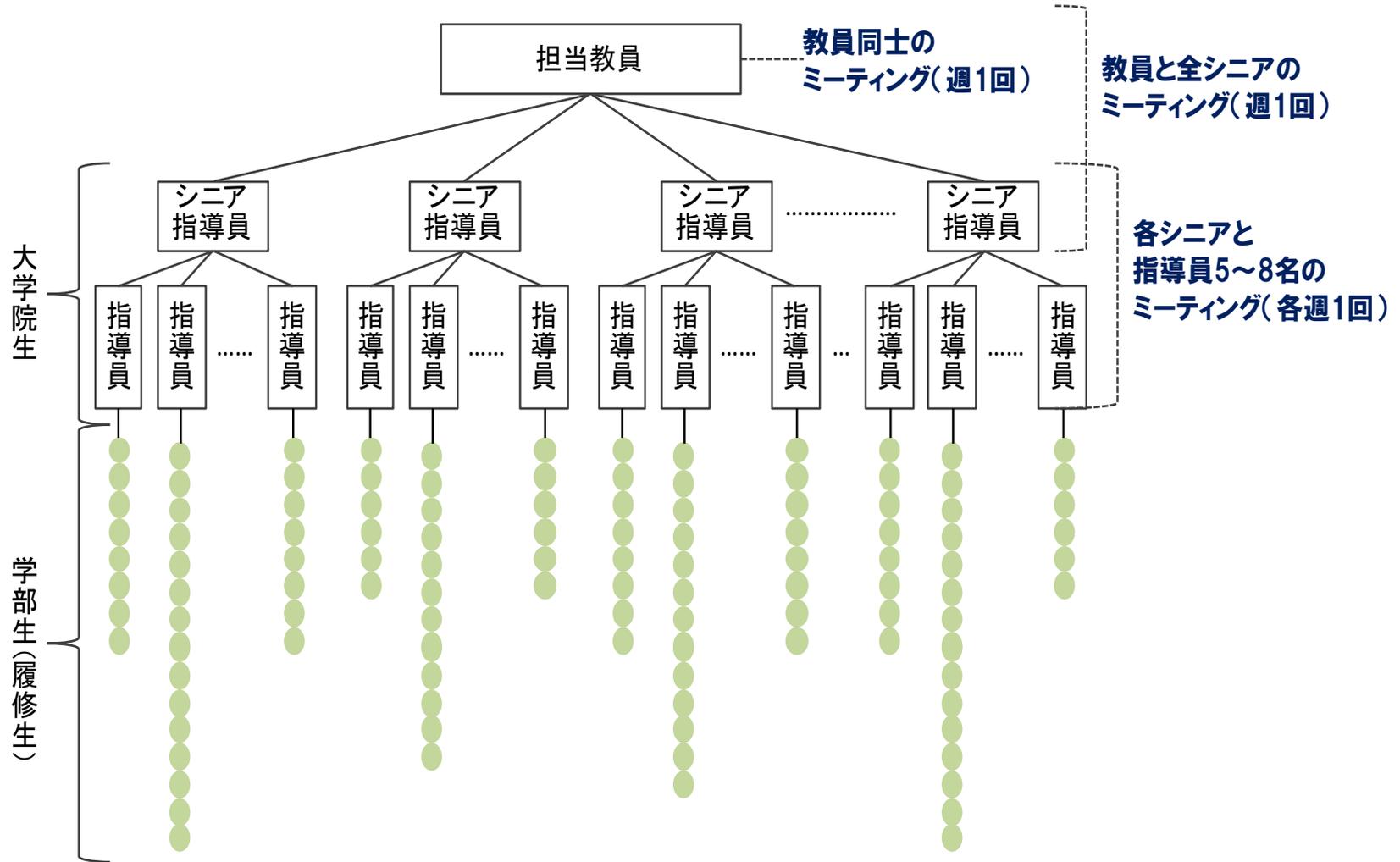
評点

評定のポイントと評価点 (指導員: [まきまき])
評価ポイントと評価点、以下のとおりです。
3/3点 ①序論で文章の目的を明確にする
2/3点 ②序論で述べた、文章の目的を本論で達成させる
3/3点 ③序論と結論が対応するようにする
2/1点 ④形式を整えて書く(第1回参照)
3/1点 ⑤一文一義で書く(第1回参照)
2/1点 ⑥十分に注意を払った点またはコメントに対する感想をコメント欄に書く

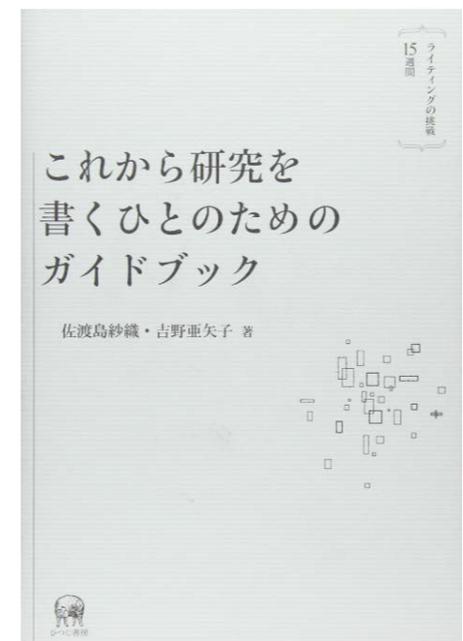
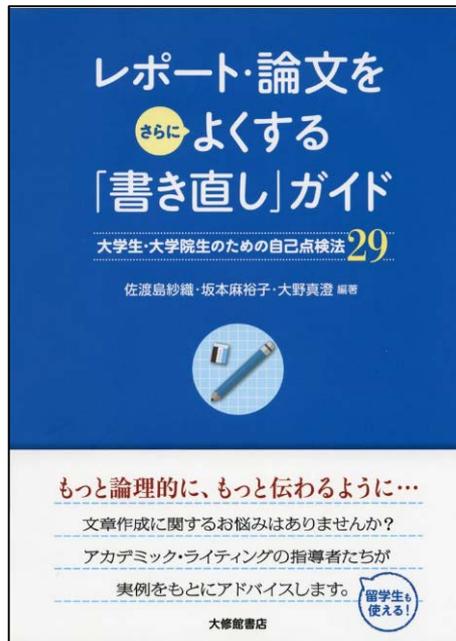
「序論・本論・結論」という構成の仕方がよく理解されています。第3回までの学習項目も、よく抑えられていると思います。「はっきり言って」という表現は、学術的文章には合わない表現なので、避けたい方がよいでしょう。
【 12 点中 11 点 】

指導員のコメント

全研究科から院生を募集し 文章指導者に育成し監督する



書き手自身が文章を見直し修正するための観点を示した本



文章を診断・修正するための観点を教える授業は有効か

佐渡島他(2015)

【目的】初年次ライティング授業受講者は、その後のレポート作成で非受講者よりよい文章を書いているか。

【方法】初年次ライティング授業受講者と非受講者が、同一レポート課題で書いた文章を比較する。

【結論】初年次ライティング授業受講者は、非受講者よりレポート文章の質が優れていた。

文章評価ルーブリックの開発

専門分野に入る手前の学生(1, 2年生)が書く文章を評価するための観点を
因子分析によって整理 佐渡島他(2011)

項目	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5	h ²	
第1因子文と語句 ($\alpha=0.83$)							
X10	多義にとれる助詞の「の」がない	0.84	-0.16	0.03	-0.02	-0.08	0.56
X11	不要な「～化」「～的」「～性」「～観」がない	0.79	0.16	-0.21	-0.03	0.06	0.67
X12	分かりにくい外来語がない	0.77	-0.03	-0.32	0.21	-0.02	0.48
X9	分かりにくい指示代名詞や代名詞がない	0.71	-0.27	0.27	0.04	-0.08	0.53
X14	主語と述語の合っていない文がない	0.64	0.22	0.04	-0.04	-0.04	0.58
X16	接続表現が適切に使われている	0.59	0.28	0.11	-0.08	-0.06	0.61
X15	複雑で分かりにくい文がない	0.56	0.03	0.25	-0.04	0.06	0.56
X8	語句に「揺れ」がない(「戦地報道」と「戦地取材」、「発表」と「プレゼン」など)	0.47	0.01	0.01	0.01	-0.05	0.21
X5	専門用語あるいは特殊な用法で使っている語句が定義されている	0.46	0.18	0.11	-0.10	-0.09	0.33
X13	誤字脱字がない	0.40	-0.08	-0.12	0.09	0.05	0.14
第2因子内容 ($\alpha=0.79$)							
X34	主張や論証の仕方に独自性がある(一般によく言われるような事柄をなぞっていない)	-0.07	0.87	0.04	-0.09	-0.02	0.65
X35	内容の設定範囲が適切である	0.32	0.75	-0.03	-0.10	-0.01	0.78
X20	レポートの文章全体が、示された目的または問いに沿っている	0.01	0.55	-0.03	0.44	-0.02	0.71
X33	題名が内容と合っている	-0.01	0.52	0.07	-0.07	0.07	0.31
X32	課題に答えている	0.09	0.52	0.23	0.06	-0.02	0.57
第3因子段落 ($\alpha=0.83$)							
X25	トピック・センテンスまたは中心文が全体に意識されて示されている	-0.06	-0.09	0.82	0.03	0.13	0.64
X23	段落ごとの論点が整理されている	-0.09	0.11	0.79	0.04	0.03	0.71
X17	一文一文が論理的に積み重なっている	0.33	0.11	0.58	-0.13	-0.06	0.61
X24	根拠が適切に示されている	-0.09	0.33	0.58	-0.01	-0.02	0.55
X6	主張が明確に示されている	0.12	-0.07	0.50	0.31	0.01	0.54
第4因子全体構成 ($\alpha=0.83$)							
X22	序論で示された目的と結論が呼応している	-0.02	-0.12	0.04	1.06	-0.09	0.98
X21	結論で、取り上げられた議論のポイントが要約されている	-0.05	-0.19	0.34	0.71	-0.02	0.67
X19	レポートの目的または問いが、序論で示されている	0.02	0.35	-0.20	0.63	0.06	0.65
X18	序論、本論、結論に分けられている	-0.02	0.25	0.09	0.53	0.07	0.59
第5因子参考文献 ($\alpha=0.83$)							
X29	参考文献リストの書式が適切である	-0.11	0.02	0.12	-0.11	0.99	0.89
X30	参考文献にたどり着くことができるだけの情報が明示されている	-0.02	-0.05	-0.04	0.04	0.86	0.70
X28	本文における引用の形式と出典提示の形式が適切である	0.12	-0.12	0.16	0.01	0.59	0.44
X31	不適切な参考文献を使っていない	0.31	0.11	-0.10	-0.08	0.50	0.50
因子負荷の2乗和							
	4.67	3.20	3.13	2.83	2.35		
因子変異率							
	0.17	0.11	0.11	0.10	0.08		

2. 《考える》学生を育てるライティング支援

大学におけるライティング教育

早稲田大学ライティング・センター



一対一で文章作成を支援する

ライティング授業では原理・原則を教える



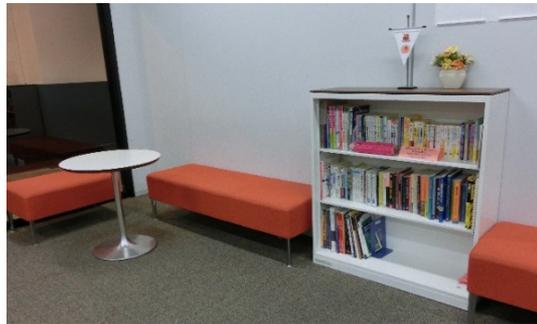
一人ひとりの主張したい内容に応じて文章を検討する

何度でも訪れることができる

45分間、予約制

学部生・院生・教員が利用





ライティング・センターの指導理念

理念1 Writing as a Process

書くことを「過程」で指導する…ゴミ箱の研究

- 1) 最終稿に至る過程が大切
どの段階で訪れてもよい。構想、下書き、仕上げ
- 2) まだ一行も書いていなくてもライティングは始まっている。
一緒にブレン・ストーミングを行う。
- 3) 同じ課題を何度持って来てもよい。
何度も書き直すことが有効である。

ライティング・センターの指導理念

理念2 Writing Across the Curriculum

領域を横断して書くことを支援する

- 1) 専門領域を超えてライティングには共通する問題がある。従って、ライティングは、独立した一領域である。
- 2) チューターは専門領域に精通している必要はない。
〈書かれ方〉を診断するプロである。チューターは一読者としての助言を与える。

ライティング・センターの指導理念

理念3 自立した書き手を育てる

「紙を直す」のではなく「書き手を育てる」

- 1) 書き手が独りになったときにも文章の診断と修正ができることを目指す。
- 2) 添削しない。代わりに書かない。翻訳しない。

添削指導の功罪

教員「徹夜で卒論の赤入れをしているのに、学生はちっとも書けるようにならない！」

◆どこがまずいかを特定している・・・教員

◆どう直すとよくなるかを考えている・・・教員



学生が どこがまずいかを自分で特定できる

学生が どう直すとよくなるかを自分で考える

利用者がもっている前提

ライティング・センター利用者の要望

「文法チェックをお願いします。」

「ネイティブのチューターにみてもらいたい。」

「予め、文章を読んでおいてほしい。」

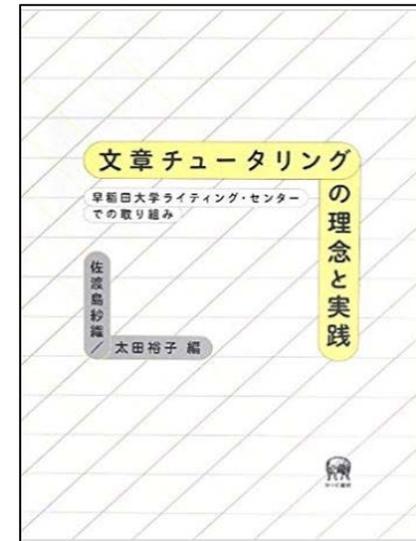


文章には正解がある

正解はチューターが知っている

自立した書き手を育てる

- ◆ **対話**で気づきを促す
- ◆ **複数の修正案**を提示する
- ◆ コーパスや辞書を**一緒に調べる**
- ◆ **作業をさせて主体的に関わらせる**
- ◆ **言語の枠を超えて支援する**



自立した書き手を育てる対話

W君: レポートの下書きを持参。

「文章の構成が、しっかり来なくて・・・」

チューター: 「では、読んで下さい。」

W君: 「日本の大学が今後、国際化していくためには、三つの点において改革が必要である。1点目は～、2点目は～、3点目は～。」

チューター: 「三つの改革案を考えたのですね、一つひとつについて説明して下さいますか。」

W君: 一つひとつ説明しているうちに、

「あれ、この3点目は、2点目の補足ですね・・・。改革案は三つではなく二つでした。構成を変えます。」

自立を促す書き込み作業

◆途中で論がずれていく文章

文章の目的(問い)が書かれた文に下線を引いてください。

結論(答え)が書かれた文に下線を引いてください。下線部二つを続けて読んでください、一貫していますか。

◆曖昧な箇所が多い文章

「こそあど言葉」を四角で囲んでください。二通りに解釈できる場合は、具体的な語句に置き換えましょう。

「こと」「もの」「助詞のの」を丸で囲んでください。具体的な語句に置き換えましょう。

キーワードと似た意味の語句をハイライトしてください。一貫していますか。使い分けていますか。

多様な言語で支援

- ✓ 日本語文章を日本語で検討する
 - ✓ 日本語文章を日本語教育専門家と検討する
 - ✓ 日本語文章を英語で検討する
 - ✓ 日本語文章を中国語で検討する
-
- ✓ 英語文章を英語で検討する
 - ✓ 英語文章を日本語で検討する
 - ✓ 英語文章を中国語で検討する
 - ✓ 英語文章をタイ語で検討する

書き手の自立を促す対話

佐渡島(2009)

【目的】ライティング・センターのセッションでは書き手に気づきが生きているか、どのような会話で起きているかを調べる。

【方法】書き手とチューターによる対話をコーディング

【結論】気づきは起きていた。次の四つの場合に起きている傾向がある。①書き手が問題提起をしている②書き手が意図をたくさん話している③チューターが読者としての反応を返している④チューターが相槌を打ったり、おうむ返ししたりしている

非母語で書いている場合

Sadoshima (2016)

【目的】早稲田大学ライティング・センターのチューターが、外国語で書いた学習者文章の文法事項、語句選択をどのように支援しているか。

【方法】セッション26の会話を分析

【結論】文法は、教えないと分からない点が多い。語句選択も、語句のニュアンスを教えないと分からない場合が多い。

直接答えを教えることが問題なのではない。むしろ、書き手の意図に即して、理由を説明しながら文章を修正することに意味がある。

ライティング支援者の研修

毎週90分間の自主ワークショップ

先輩チューターの対話を聴く
セッション対話の振り返り



社会に巣立った卒業生たちの言葉

- ライティング・センターを会社の中に立ち上げたい。
- 「難しく書く」のが大学でのライティングだと思っていたが、「分かり易く書く」ことが重要だと知った。それがビジネス文書で生きている。
- 引用の重要性は、社会に出ても同じ。
- 書いた文章の中身は忘れてしまったが、「一文一義」に気をつけて書いたことは覚えている。
- 後輩の文章を見るときに、あの授業で習ったポイントで見ていることに気づく。

参考文献

- 井田良・佐渡島紗織・山野目章夫(2016)『法を学ぶ人のための文章作法』有斐閣
- 佐渡島紗織・吉野亜矢子(2008)『これから研究を書くひとのためのガイドブックーライティングの挑戦15週ー』ひつじ書房
- 佐渡島紗織(2009)「自立した書き手を育てる」全国大学国語教育学会編『国語科教育』66、pp.11-18
- 佐渡島紗織・太田裕子他編著(2013)『文章作成チュータリングの理念と実践』ひつじ書房
- 佐渡島紗織・宇都伸之・坂本麻裕子・大野真澄・渡寛法(2015)「初年次アカデミック・ライティング授業の効果ー早稲田大学商学部における調査ー」『大学教育学会』37(2)154-161
- 佐渡島紗織・坂本麻裕子・大野真澄編著(2015)『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイドー大学生・大学院生のための自己点検法29ー』大修館
- 佐渡島紗織・坂本麻裕子・宇都伸之・渡寛法・大野真澄・外村江里奈・中島宏治(2016)「因子分析による学術的文章作成力の構造解析」『リメディアル教育研究』11(2)39-48
- 野矢茂樹(2001)『論理トレーニング101題』産業図書
- Sadoshima, Saori.(2016). “Fostering the autonomy of L2 writers: Tutorial sessions at Waseda University Writing Centers.” Critical Reflections on Foreign Language Education: Globalization and Local Interventions. The Language Training & Testing Center, Taiwan University; Taipei Taiwan, pp.85-110.

御清聴ありがとうございました



sadoshima@waseda.jp